

「赤ちゃんポスト」800年超す歴史の欧州 — 広がる命救う

「次善策」伊など相次ぎ復活 — 独では法解釈未決着

(中国新聞5面H19年3月9日金曜日)

熊本市の慈恵病院が設置を計画している「赤ちゃんポスト」は、欧州では800年以上の歴史を持つ子捨て対策の一つだ。近代に入り、子捨てを助長するなどの理由で廃れたが近年、移民などの間で子捨てが増加、有効な対策がない中、ドイツやイタリアなどで相次いで復活。生命を救う「次善の手段」として静かな広がりを見せている。(ベルリン、ローマ共同＝永田正敏、宇野隆哉)

ドイツでは1999年、北部ハンブルクでゴミ容器などに放置された5人の赤ちゃんのうち2人が死亡したのをきっかけに復活した。社会福祉団体などが暖房装置付きの新型「ポスト」を開発し、翌年4月に設置。1ヵ月後に最初の赤ちゃんが入れられ、その後の5年間で計22人の命を救ってきた。ドイツでも「ポスト」が合法か違法かをめぐる解釈は、いまだ明確な決着をみていない。「子どもは自らの生まれを知る権利があり、親には養育義務がある」などの反論は根強い。しかし「赤ちゃんを救う他の方法があるのか」(ベルリンの病院理事)などと各地に広がり、正確な統計はないが、現在、全国で80ヶ所以上にあるといわれる。またロイター通信によると、ドイツ以外にもスイス、オーストリア、ベルギー、ハンガリ

一などでも設置されている。「ポスト」の原形である「ルオータ」制度を持つイタリアでは、ファシズム時代にいったん廃止されたものの、93年に北部アオスタに設置されたことで復活。昨年12月にはローマの病院に「ポスト」が設けられ、今年2月に最初の赤ちゃんが入れられた。ピサ高等師範学校のアドリアーノ・プロスペリ教授（宗教改革史）によると、ルオータが爆発的に増えたのは16世紀後半、宗教改革に反発したカトリック教会が婚外子を違法とし、妻以外の女性に子どもを産ませた貴族などの子捨てが増大したためという。しかし、1923年、独裁者ムッソリーニが家族重視のファシズムに反するなどの理由で廃止した。

アラームで駆けつける医師

— 午後9時半ローマ・カジリーノ病院

2月24日午後9時半。ローマ・カジリーノ病院のナースステーションでアラームが鳴った。昨年12月、病院の玄関に設置した「赤ちゃんポスト」が初めて作動したのだ。赤ちゃんは生後3、4ヶ月の男児。ただちに検査を受け、当直医の名前をとってステファノと名付けられた。「あの時は病院中が喜んだよ。小ぎれいな服を着ており、母乳で育てられていたことがすぐに分かった。親に愛されていた子だと思う」と乳児科医長のパオリッロ医師。「ポスト」の仕組みは簡単だ。外から窓を開け、暖房装置の付いたベビーベッドに赤ん坊を入れるとセンサーが感知しアラームが鳴

る。医師や看護師が1分以内で駆けつけてくるが、中からは誰が入れたかわからない。病院はローマ市の東端近く、所得が低く移民の多い地域にある。同病院で扱う年間2000件の出産のうち37%は外国人。ローマ市のあるラツィオ州平均（19%）の倍近い。「赤ちゃんを捨てずにわたしたちに預けて」「ポスト」が設置された病院内の建物には移民の利用を想定し、イタリア語だけでなく、中国語や英語など6ヶ国語で呼びかけが書かれている。1年半前、道端のトラックの上に赤ちゃんが放置されていた事件が設置のきっかけとなった。病院内に抵抗はなかったという。イタリアでは妊娠中絶を防ぐ目的で母親の養育義務放棄が認められており、この病院でも過去3年で28人の母親が身元を明かさないうまま出産、赤ちゃんを養子に出した経験があるためだ。一方、2001年8月にポストを設置したドイツの首都ベルリン南部のカトリック系民間病院「聖ヨゼフ病院」のキアラ・リピンスキ理事は「極限に追い込まれた母親を助けるため設置を決断した」と強調する。今では市内4ヶ所に設置され、計20人の命が救われ、すべて養子として無事巣立った。ドイツではポストについて「育児支援で絶望した母親を助けるべきだ」（元ベルリン市議）という倫理的な反発や法律論による反対も根強い。（ローマ・ベルリン共同）

他に選択肢あるのか ー 独の聖ヨゼフ病院リピンスキ理事

ベルリンで「赤ちゃんポスト」を運営するカトリック系の聖ヨゼフ病院

のキアラ・リビンスキ理事（看護担当）は、ポストが子捨てを助長するとの批判に対し「では死を待てというのか。ほかに選択肢はあるのか」と問い続けた。（ベルリン共同＝永田正敏）

— 設置のきっかけは。

2001年にベルリンで4人の赤ちゃんがゴミ箱などに捨てられると事件があった。母親が極限状態に追い込まれたことを意味し、母親の不安解消のために踏み切った。

— 赤ちゃんはどう扱うのですか。

必要な治療をした上で、数日中に養子を希望する人に引き渡す努力をする。

— 引き取り手は。

希望者のリストは長い。養父母は当初の1年間はいわゆるフォスター・ペアレント（里親）として養育、その後に法的な養子関係が成立する。

— 子捨てを助長するとの批判があります。女性にとって新生児を捨てるのは容易ではない。最も重要なのは彼女が赤ちゃんをポストに入れたことで、少しでも生き延びてほしいと望んだということだ。

— 法的な問題は。

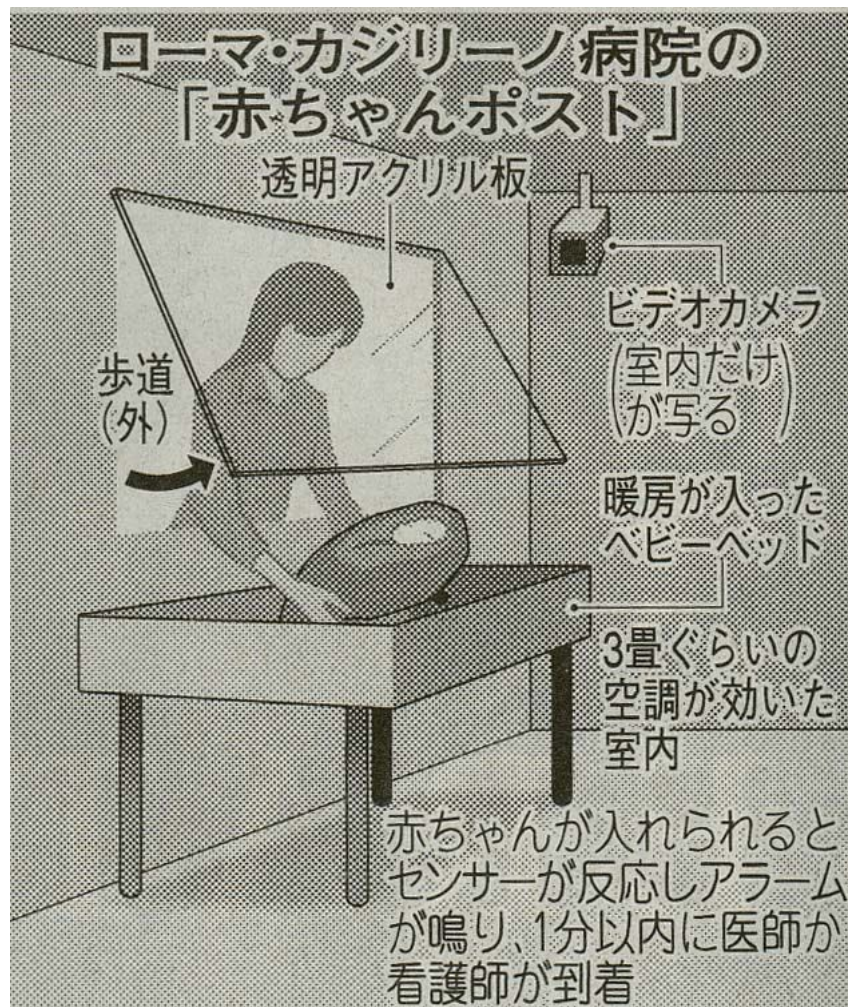
法的には灰色のグレーゾーンだ。しかし極限状態でほかに選択肢があるだろうか。死を選べということだろうか。

— 母親への配慮は。

ポストを必要とする母親の多くは低所得者。未婚で妊娠することが死刑宣告と同じ意味になることもある。ポスト内にはロシア語、ポーランド語、トルコ語でも気が変われば赤ちゃんを取り戻すことができると書いた手紙を入れている。

— このまま続けるのですか。

命を救うには、ほかに方法がない。問題は法的規制からポストを宣伝できないことだ。カウンセリングのための電話番号を記したビラを学校やスーパーで配りたい。



* ルオータ — イタリア語の RUOTA。車輪などを回転するものを指す。親が顔を見せずに赤ちゃんを預けられるよう、回り舞台のような受け付け台を壁に作ったことからこのように呼ばれた。病院、修道院などに多く設置された。1188年、フランス・マルセイユの病院に初めて設けられたと伝えられる。一方、伝説によると1198年、ローマ法王インノケンティウス3世が、ローマを流れるテベレ川の魚網に子どもが多くかかるのを見て制度を確立し、川沿いに建てたセントスピリト病院にルオータを設けたとされる。(ローマ共同)